

NEWS RELEASE

2022年1月21日

東亜オイル、廃油の燃料化技術を生かし、油性廃棄物のエマルジョン燃料へのリサイクルプラントを稼働

焼却処理をするしかなかった高粘度の廃塗料や特管廃油などを原料とし、CO₂の低排出や低コストといった付加価値あるエマルジョン燃料の製造・販売をスタート

廃油の収集・処理とトータルリサイクルをリードする株式会社東亜オイル興業所（本社：千葉県八千代市、代表取締役：安池慎一郎、以下、「東亜オイル」）は、この度、収集した油性廃棄物をエマルジョン燃料^{*}にリサイクルするプラントを整備し、稼働を開始いたしました。焼却・埋め立て処理が一般的とされてきた油性廃棄物（高粘度の廃塗料、インキ、油泥、特管廃油、水溶性廃油、廃アルカリ）を原料とし、エマルジョン燃料を製造することにより、油性廃棄物のリサイクル率の向上とともに、低コストで環境負荷の少ない高付加価値な燃料の提供が可能となります。

東亜オイルは、これまで特に環境汚染への影響が大きく、適正な処理を必要とする廃油の処理において、熱回収（サーマルリサイクル）や固形燃料化を積極的に進め、埋め立て処理ゼロに向けた廃油のトータルリサイクルを目指してきました。今回、エマルジョン燃料へのリサイクルを開始するにあたり、その取り組みをさらに前進させることとなります。

エマルジョン燃料は、燃焼効率が高く、燃料コストの削減に加え、CO₂やNO_x（窒素酸化物）の排出を削減できるなど、従来の化石燃料に比べて環境負荷の少ない燃料です。当社のプラントでは、業界でも最高水準の防火基準や防臭対策を導入し、一日あたり74 m³の廃油を安全かつ安定的にエマルジョン燃料へリサイクル処理することが可能となっています。さらに、これまで培ってきた当社の廃油リサイクルの技術やノウハウを生かし、お客様の利用環境に合わせた粘度や発熱量のカスタマイズにも対応し、セメント製造業、石灰製造業、産業廃棄物処理業などに向け販売を行う予定です。

従来の処理方法



東亜オイルの処理方法：廃油のトータルリサイクル



東亜オイルは、今後も限りある資源の有効活用における技術力を高めながら、「廃棄物の完全リサイクル」を目指し、事業を通じて地球環境保全に寄与していきたいと考えています。



***エマルジョン燃料とは：**

重油、軽油、灯油などの燃料油や廃油に水を混ぜ、界面活性剤を添加し、攪拌することで乳化（エマルジョン）させた液状燃料。化石燃料に比べて、燃焼効率が高い一方で、燃焼時の CO₂ や NO_x（窒素酸化物）の排出量や燃料コストは軽減できるなど、環境負荷の少ない燃料とされる。原料に廃油を利用した場合、さらに油性廃棄物の埋め立て処理の削減にもつながる。

【本件に関するお問い合わせ】

株式会社東亜オイル興業所 経営サポート部 広報担当 星野
 電話：047-485-7189 Mail: hoshino-akira@toaoil.com

【株式会社東亜オイル興業所について】

1950年に創業した廃油回収業を前身とし、1968年に有限会社東亜オイル興業所を設立、1975年に株式会社とした。千葉県八千代市を本拠に、現在、関東1都6県を含む10都県に大手企業を含む幅広い顧客を持ち、多種多様な産業廃棄物の収集運搬と中間処理を行う。特に廃油のトータルリサイクルのパイオニアとして、高い技術力をベースにした熱回収（サーマルリサイクル）、再生重油の製造や固形燃料化を推進。その他、コンクリート剥離剤の製造・販売、メンテナンス、コンサルティングなど廃棄物に関わる幅広い事業を展開している。「廃棄物のリサイクル処理を通じて省資源及び環境保全の両面で、広く産業社会に貢献すること」を理念とする。

<https://www.toaoil.com/index.html>